

通 話 用 紙

知 事	副知事	事務部長	消防交通課	課長	課員
火山情報第2号(臨時)昭和48年2月1日 15時 軽井沢測候所発表					
通話日時	昭和 48 年 2 月 / 日 午後 0 時 / 0 分				
発 信 者	前橋气象台(櫻田隆彦)	受 取 者 印	消防庁文書(神保哲郎)		
あて名	群馬県消防防災課	発信者名	前橋气象台長		
件 名	火山情報(浅間山関係)				

要 旨

2月1日3時頃から浅間山の火口附近で火映が観測され、日の出と共に6時頃に現えたりしました。火映と言うのは、火口内に熱した物(温度は1000℃内外)があって、これが火口上の噴煙や雲に反射して赤く見える現象を言います。火映が観測されるのは昭和36年の連発噴火(以後に観測されたのは昭和37年7月1日)以来のことです。昨年12月下旬以降噴煙の増加があり、今回火映の観測もあって、浅間山の活動も一時の非常に静かな状態に比べ、多少変化しつつあることが考えられます。しかし、観測の面からは、日によってその回数に多少の変動が見られる程度で、大きな変動は認められませんので、今すぐ噴火活動に入るとは考えず、例から見て少ないと思われ、今後の変化には充分注意する必要があります。なお、防災関係

②1 火山情報 (浅間山関係)

昭和48年(1973)

2月1日午後3時に軽井沢測候所が発表した「火山情報第2号(臨時)」を伝える文書です。午前3時に火映(火口内の熱した物が火口外の雲などに反射して赤く見える現象)が観測され、浅間山の活動が多少変化しつつあることが書かれています。

通 話 用 紙

知 事 副知事
 総務部長 消防交通課長 課員

通話日時 昭和 48 年 2 月 1 日 午後 8 時 40 分
 発 信 前橋地方気象台(三井建設) 受 信 消防防災課(神保夜郎)
 取 扱 者 前橋地方気象台
 あて名 群馬県消防防災課長 発信者名 前橋地方気象台
 件 名 火山情報 浅間山関係

要 旨

浅間山は2月1日19時20分26秒に突然中爆発しました。この爆発に伴って火口から約1km離れた浅間川沿いの地震計には最大振幅190ミクロンの爆発地震が、手動気圧計には1.8mbの空襲が記録されました。夜間のため噴煙の状態や噴石の飛散状態の詳しいことは解かりませんが、20時現在までの情報では千ヶ滝エのグリーンホテル付近ではニギリコブシ大の噴石を混じった降石があり、千ヶ滝では降灰、旧野井では軽石の落下が見られ、グリーンホテルの駐車場では降石のため車のフロントガラスの破損したものの、千ヶ滝方面ではガラスの一部破損があったもの

②①火山情報 浅間山関係

昭和48年(1973)

浅間山は2月1日午後7時20分26秒に突然、中爆発しました。夜間のため噴煙の状態や噴石の飛散状態が分からないことや、午後8時現在の被害情報が記載されています。握りこぶし大の噴石をまじえた降石や降灰があることが伝えられています。

群馬県行政文書「火山対策」(A0190B00 84)

昭和48年2月1日浅間山爆発経過

- 1 16時10分
前橋気象台から火山情報ヲ二号(臨時)緊急伝内ハ火山噴出
シ浅間山ハ噴出があるニシテ認められるハ警戒体制ハ万全
を期するよう通報を要す。
- 2 16時40分
群馬県警本部 行政部係で群馬市ハ通じ市町村長ハ伝達す
- 3 19時2分 (風向 NNW 風速 2-9%)
突然大噴火音と共に噴霧(中型)の火柱が活動口ニより噴出見
えられ前橋気象台は云っている。本庄市で降灰。19時10分
1.5cm
- 4 19時40分 (情報)
栃野原 湯中 高城 太田 館林 降灰あり
- 5 20時05分 (情報)
長野原の火災の見え方 消防団自宅待機 (長野原長場)
- 6 20時10分 (情報)
館林の火災の見え方 (県警)
- 7 20時15分 (長野原長場情報)
伊達グリーンホテル(浅間山の南東1km)のガラス4枚が割れ飛散
しハワグン火の噴石が落ちた。又ホテルの駐車場ハ火山灰に
より自動車4台のフロントガラスが破壊し。

- 8 20時15分
20時15分同時ハ長野原と群馬原ハ国道146号を通行禁止し
湯野村と館林及ハ観音堂入口ハ在府政を云し。又噴の音
が飛散口ハワグン火の火山灰が降った。
- 9 21時00分
上記情報ハ消防庁通信室に報告
- 10 21時40分
県政課より警備状況ハ消防ハ明朝県政本部に調
査して報告するよう指示した
- 11 22時00分 (長野原長場ハ長野原長場ハ連絡)
火山活動ハ22時現在ハ治まったと思われ。
- 12 22時00分 (県警統制室)
通行禁止解除。注意しハ火山通行するよう認められた
- 13 22時30分 (長野原長場ハ)
20時30分以後取付なく平常ハ状態ハ云々。然し再度ハ恐れ
ありハ断定ハ出来ぬ。
- 14 22時40分
上記情報ハ消防庁通信室に報告
- 15 23時00分
消防防災課対象体制を解除。
- 16 現在 長野原側3コース、湯野原側1コース 岩ハ登山を禁止し。

- 2月2日
- 1 午前7時40分
湯野村、長野原町、栃野原町、華津町の4町村に被害状況
の報告を求めた
 - 2 午前9時
上記4町村に対し今後の警戒体制ハ消防ハ下記事項を電報と
して通達した。
 - 3 午前9時
① 今後の噴火ハ増え、地元の警察署と県警ハ連絡してとり再噴火
時ハ直ちに交通規制を實施出来るよう協賛しておくこと。
 - ② 地元消防団の活動体制を整えておくこと。
 - ③ 山の異常を察知した時直ちに消防防災課に通報すること。
- 2日 9時0分 湯野村火山対策本部設置
- | | | | |
|------|-----|------|--------|
| 湯野村 | 消防団 | 100名 | } 自宅待機 |
| 長野原町 | " | 60 | |
| 栃野原町 | " | 182 | |

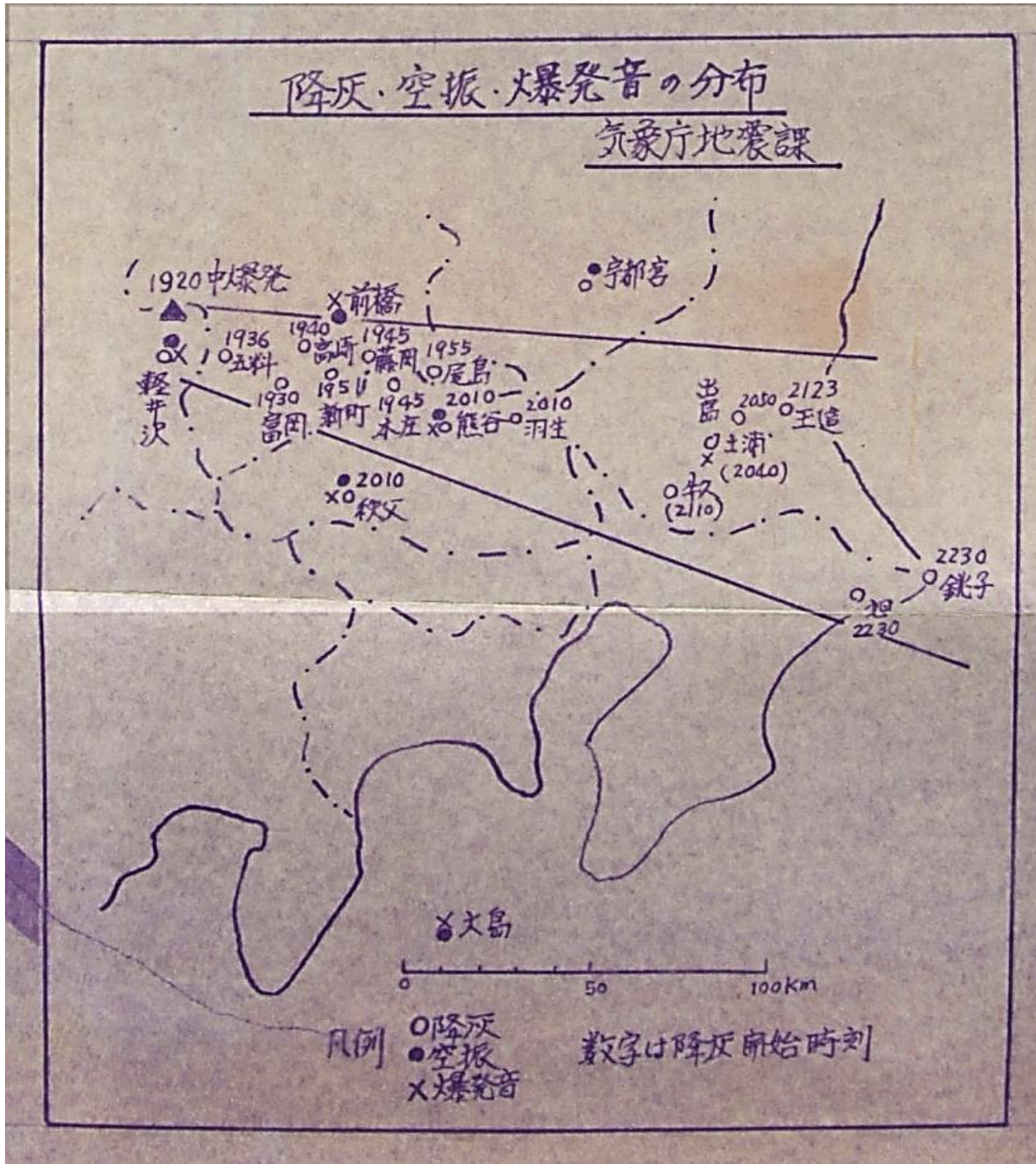
②1 浅間山爆発経過
昭和48年(1973)

2月1日から2月2日午前までの経過が記されています。長野原では山火事に対し、消防団が自宅待機している様子や、噴火後すぐに国道146号を通行禁止にしたことが分かります。2日の朝には被害状況を確認したり、関係町村に電話で警戒体制について通達したりしています。火山活動は1日の夜には収まりますが、この後、1か月以上にわたり小噴火や微噴火が繰り返されます。

群馬県行政文書「火山対策」(A0190B00 84)

降灰・空振・爆発音の分布

気象庁地震課



②降灰・空振・爆発音の分布（気象庁地震課）

昭和48年（1973）

この図では、降灰・空振・爆発音の分布について関東全体の状況が分かります。降灰は千葉県の銚子でも噴火から約3時間後の午後10時30分にありました。空振については前橋や宇都宮でも観測され、爆発音については伊豆大島でも観測されたことが分かります。中爆発とはいえ、そのエネルギーの大きさに驚かされます。